



北山田小だより



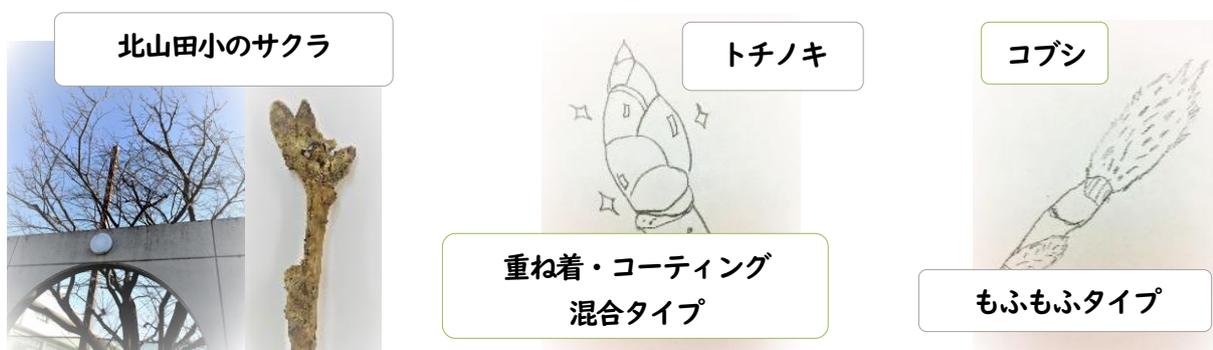
横浜市立北山田小学校
校長 滝川 尚美

冬芽の姿から

副校長 二瓶 亜希子

2月になりました。2月4日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」と言われる日です。暦の上では春を迎えるわけですが、昨年未までが断続的に暖かい日が訪れていたせいか、今が冬の厳しい寒さの真っ盛りのようにすら感じます。でも、そんな寒い日でも、子どもたちの笑顔と元気なあいさつで、暖かい温かい気持ちになります。

北山田小の桜の木もすっかり落葉して、寒風に身をさらしていますが、冬芽をつくってしっかりと寒さ対策をしています。冬芽の中には葉や花や枝になる芽が小さくまとまっていて、よく観察してみると、寒さから身を守るために様々な工夫をしていることが分かります。最も多いのは、サクラやコナラのように芽に芽鱗（がりん）と呼ばれるうろこ状のものを何重にも重ねる「重ね着タイプ」です。寒い地方に生えている落葉樹では、30枚も重ねているものもあるようです。ネコヤナギやコブシは、ふかふかの毛で守る「もふもふタイプ」です。見た目も手触りも防寒対策ばっちりといった装いです。また、寒さに加え、冬の乾燥にも強い「コーティングタイプ」は、トチノキやハンノキなどです。冬芽の外側にロウ物質や水あめ状の樹脂が出てきて、芽鱗の表面やうろこ状になったところの隙間を覆っています。



種類ごとにそれぞれの知恵を絞り、個性を活かして、冬の厳しい寒さを乗り越えていく冬芽の姿からは、各々がもつ困難に立ち向かうために人間が学ぶところは多いのではないかと考えます。そしてその強さや聡明さは、北山田小の子どもたちからみなぎるものでもありました。長い冬とも言えるコロナ禍から明けた今年度は、裏を返せばまた大きな変化を伴う時期ともなりましたが、昨年度までできなかった様々な活動、例えばフレンドチームの活動、宿泊体験学習、運動会、学校以外の人と関わる活動などに、子どもたちは実に楽しみながら取り組み、成長を重ねました。

さて、1月末に子どもたちが楽しみにしていた大谷翔平選手の3つのグローブが届きました。大谷選手のグローブに触れることで、「左利き用グローブを一ついれた意味」「近年の大リーグで誰も成し遂げたことのない二刀流にチャレンジ」「ごみを拾うことは『福』を拾うこと」「自分が使ったロッカールームなどは『もとよりきれいに』」「目標に向かってたゆまぬ努力を続ける」「『憧れるのをやめましょう』」などなど、子どもたちが大谷選手の生き方にも興味をもち、その姿から、それぞれが自分にとって大切なことを何か感じ取ってくれたら、と私は願います。残り2か月。教職員一同も、子どもたち一人ひとりが成長していけるよう支援してまいります。

